

## 【中止】 「2019年度 第2回平安朝文学研究会 研究発表会」

2月23日(日)、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う本学の対応方針が本学Webサイトに公開されました。それに伴い、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、研究発表会および委員会、懇親会を中止といたします。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

《ご参考》新型コロナウイルスの影響拡大に伴う本学主催のイベント等の対応について

[〈https://www.waseda.jp/top/news/68358〉](https://www.waseda.jp/top/news/68358)

2019年度 第2回

### 平安朝文学研究会 研究発表会

日 時 2020年3月7日(土) 14:00~16:20

会 場 早稲田大学 戸山キャンパス (文学学術院) 39号館5階 第5会議室

○ 研究発表 (14:00~15:00、15:20~16:20)

荒井 洋樹 (早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程)

『うつほ物語』 大后宮六十賀屏風攷

『うつほ物語』 菊の宴に描かれる大后宮六十賀屏風には、「右大将」を筆頭に貴顕が詠進し、和歌史的にも注目に値する。本発表では、『うつほ物語』の中で当該屏風が果たす役割を明らかにする。また、その和歌にも独自の表現が多く見え、それについても精読したい。

李 賢秀 (早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程)

『源氏物語』 「蓬生」巻における「藤」とその香り

源氏が末摘花と再会する場面には、大和絵屏風の類型的な図柄として享受された「松にかかる藤」が描かれている。この絵画的な描写には、平安時代の文化的記号としての象徴性が潜んでいると予想される。本発表では、『源氏物語』 「蓬生」巻における「藤」とその香りの意味について考察する。

○ 懇 親 会 (17:00頃～) 会 場 かわうち (新宿区西早稲田 2-3-22)

※どなたでもご参加になれます (無料)。

※当日は、同会場で13:20より委員会を開く予定です。

◎お問い合わせ 平安朝文学研究会事務局 (早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内)

E-mail : jinno@waseda.jp